

**流通システム標準普及推進協議会
平成22年度 通常総会**

**平成21年度 経済産業省事業の結果概要
～ 企業間情報連携基盤の構築事業 ～**

- 1 流通BMSの導入による効果算定に関する調査研究事業
- 2 安全・安心に資する流通システム標準の利活用手法の検討に関する調査研究事業

平成22年4月26日

経済産業省 商務情報政策局 商務流通グループ
流通政策課長 高橋 直人

1-1. 効果の見える化の目的

平成18年-20年 流通システム標準化事業(経産省事業)により、

「流通BMS」(流通ビジネスメッセージ標準) 策定

《流通BMSの目的》「消費財流通に係る企業間取引のEDI標準化」

『流通業界を取り巻く電子商取引の方式(業務プロセス及び通信手段)を整備・標準化し、製・配・販3層の一連での業務効果の向上を図る。
それにより、本来の使命である「消費者サービスのさらなる向上」、「新たな価値の創造」を実現していく。』



流通BMSへの理解促進、期待の高揚、更なる普及の拡大をはかる。

1-2. 流通BMS導入による3ステップ効果

今回、流通BMS導入企業に協力して頂き、導入による効果のヒアリング、アンケートを実施。
結果、導入レベルに応じて、様々な効果が見られる事が判明した。
以下に、流通BMSの導入レベルにより発生する各種効果を以下に示す。

E1. 流通BMS標準通信手順の導入

費用削減効果



標準採用による効果



E2. 流通BMS標準に合わせた業務改革

標準基本プロセスへの対応

標準メッセージへの対応

標準物流モデルへの対応



E3. 普及拡大により期待される効果

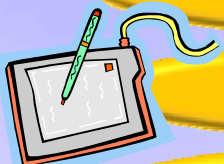
安全・安心



マーケティングや
情報提供ビジネス



デジタルコンテンツ流通



他業界との連携や接続



CO2削減効果



1-3. 流通BMS導入効果(1)

流通BMSの導入による効果算定に関する調査研究事業

E1. 流通BMS標準通信手順の導入

費用削減効果

手作業からEDIへの切り替えによる作業費削減	→	・小売 : 約74%削減 ・卸 : 約93%削減
EDI通信費用の削減	→	・小売 : 約90%削減 ・卸 : 約80%削減
独自Web-EDIの乱立抑制によるEDI関連コスト削減	→	・卸 : 約80%削減
取引先別プログラム削減によるEDI関連コスト削減	→	・卸 : 約55%削減

標準採用による効果

EDI処理時間短縮による余剰時間の活用	→	・小売 : 約93%削減 ・卸 : 約95%削減
取引先の追加や新メッセージ交換の期間短縮	→	・卸 : 約35%削減
大容量の新しい情報を短時間で交換	→	・小売 : 約88%削減 ・卸 : 約88%削減

1-3. 流通BMS導入効果(2)

流通BMSの導入による効果算定に関する調査研究事業

E2. 流通BMS標準に合わせた業務改革

標準基本プロセスへの対応

伝票レス(納品伝票)による経費削減

・小売 : 約10円/納品伝票 削減

請求レスによる経費削減

・小売 : 約75%削減

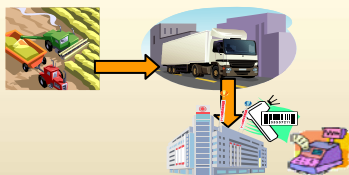
E3. 普及拡大により期待される効果①

CO2削減効果

伝票レスによる、CO2削減効果

・大小売 : 合計年間2千トン超

安全・安心



安全・安心に関する情報交換による商品管理の効率化の実現

商品トレーサビリティ、GS1バーコード利用と、その情報交換による、品質管理や個品管理の実現

E3. 普及拡大により期待される効果②

マーケティングや情報提供ビジネス



- ・棚割データとPOS情報の連携
- ・コマーシャル動画の入手

POS情報交換による商品動向分析精度の向上

各地域店舗の各種情報収集にもとづく需要予測

デジタルコンテンツ流通



デジタルコンテンツの電子流通による運送コストや時間の削減

他業界との連携や接続



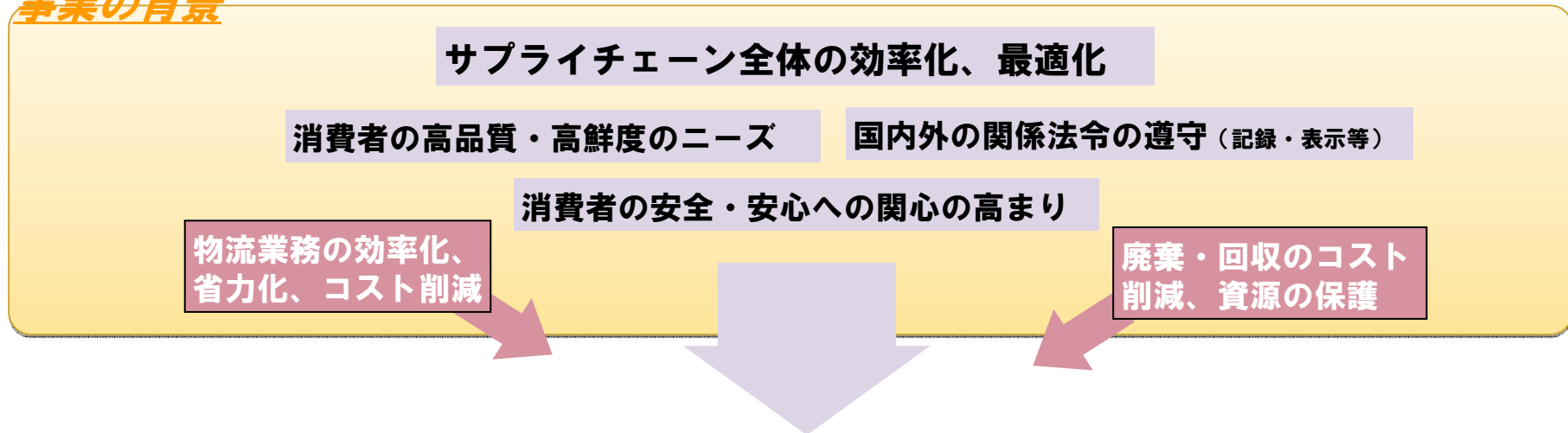
各種流通業種への適用拡大によるEDI化率の向上

金融業界とのインフラ連携による支払処理の業務効率向上

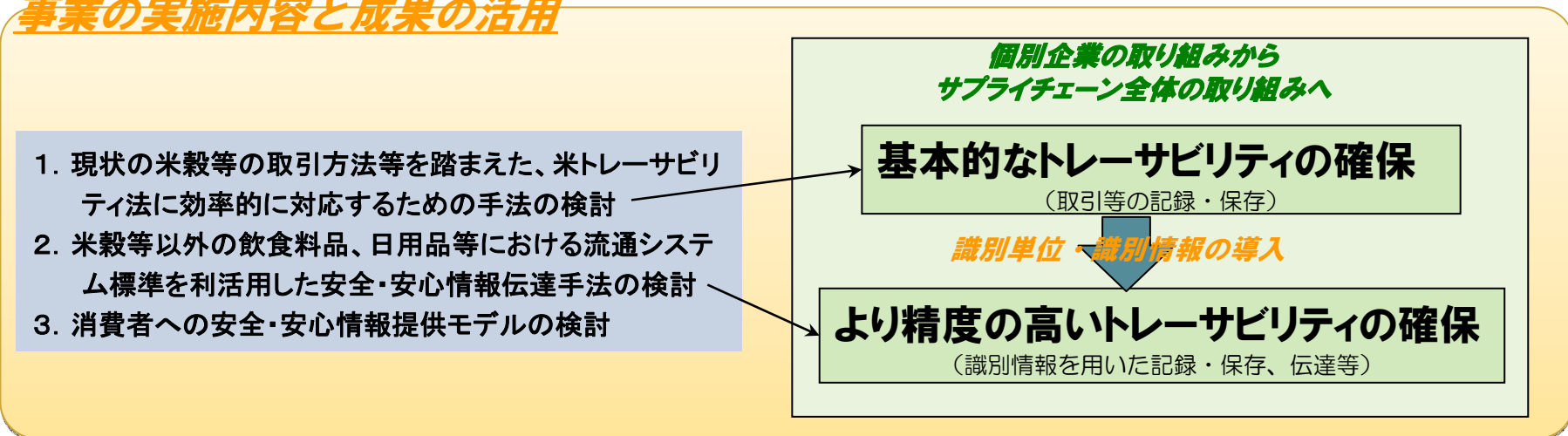
海外取引先への適用拡大によるEDI化率の向上

2-1. 事業の背景とねらい、および実施内容

事業の背景



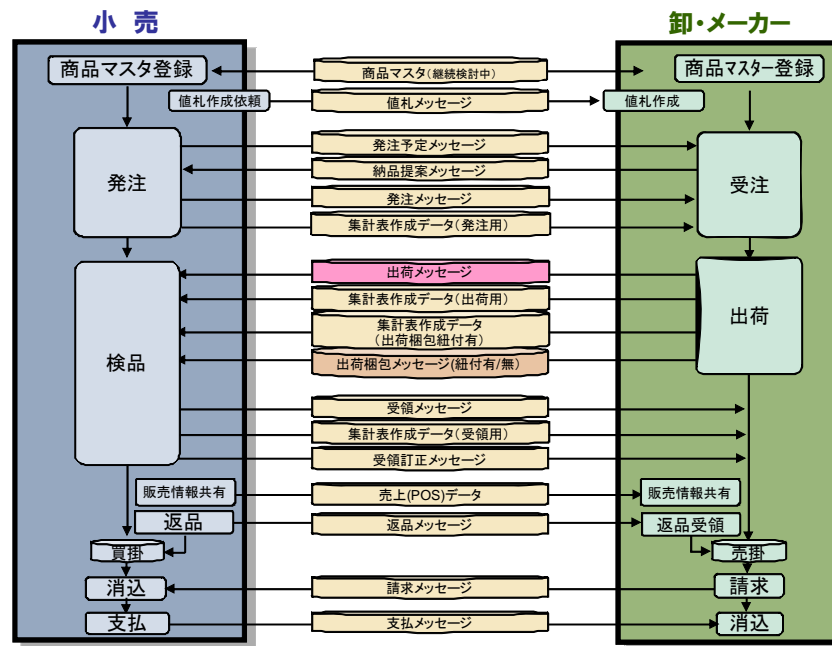
事業の実施内容と成果の活用



2-2. 流通BMSの利用方法 (一部)

使用するメッセージ

- トレーサビリティを確保する上で、取引や商品の移動の記録として運用することが可能なメッセージは、出荷メッセージであると考えられる。
- 出荷メッセージを、卸・メーカーが作成・保存することで出荷の記録として、また、その出荷メッセージを受信した小売が保存することで、入荷の記録とすることが可能となる。



流通BMSを構成する主なメッセージと利用するメッセージ

使用するメッセージ項目 (一部)

〔産地情報伝達に使用する項目〕

出荷メッセージ等を用いて産地情報を伝達する方法は、以下の3つの方法が想定される。

① 出荷メッセージの「商品名」を使用する方法

連番	メッセージ項目番号	分類	項目名	必須/任意	タイプ	XMLデータ型	桁数
107	72	商品関連	商品コード (GTIN)	必須	数字	Identifier	MAX14
108	73	商品関連	商品コード (発注用)	必須	数字	Identifier	MAX14
109	74	商品関連	商品コード (取扱い)	任意	文字 (半角カナ)	Text	MAX14
110	301	商品関連	商品コード (出荷元)	任意	数字	Identifier	MAX14
111	75	商品関連	商品コード区分	必須	数字	Code	3
112	77	商品関連	商品名	任意	文字	Text	MAX255
113	78	商品関連	商品名カナ	任意	文字 (半角カナ)	Text	MAX255

② 出荷メッセージの「都道府県コード」「国コード」「産地名」「原産エリア」を使用する方法

連番	メッセージ項目番号	分類	項目名	必須/任意	タイプ	XMLデータ型	桁数
117	302	商品関連	都道府県コード	任意	数字	Code	3
118	303	商品関連	国コード	任意	数字	Code	3
119	304	商品関連	産地名	任意	文字	Text	MAX255
122	307	商品関連	原産エリア	任意	文字	Text	MAX255

③ 商品マスタ、商品規格書・仕様書等に記載する方法

2-3. 期待される効果と今後の取り組み

識別単位・識別情報の導入

より精度の高いトレーサビリティの確保

(識別情報を用いた記録・保存、伝達等)

期待される効果

- より迅速かつ的確(限定的)な商品回収・原因説明
- より安全・安心な商品の提供
- 多様な、高度なサービスの提供 等

[メーカー] 生産管理・鮮度管理の高度化、返品・廃棄の削減、迅速かつ的確な回収の実現

[卸] 在庫管理・鮮度管理の高度化・効率化・省力化・コスト削減、返品・廃棄の削減

[小売] 安全・安心な商品の販売、説明責任・販売責任への対応、多様なサービスの提供 等

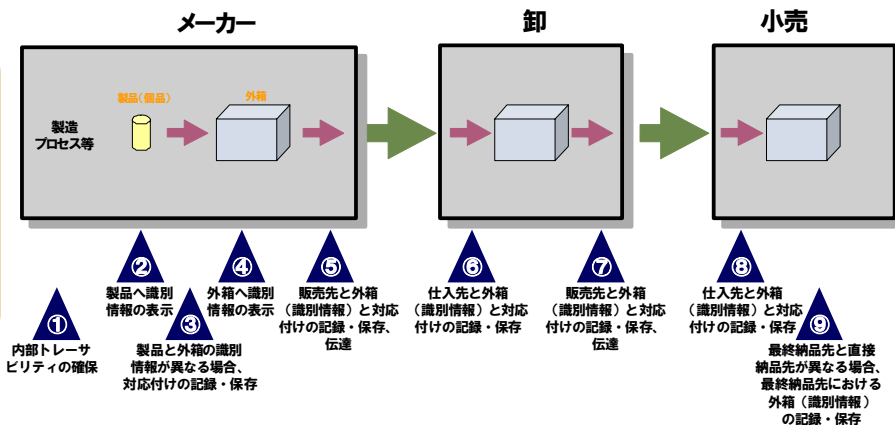
普及・導入に向けた取り組み

[Step 1-1] 検討・普及体制の整備、業務プロセス等のモデル検討・検証

[Step 1-2] 識別情報の記録・保存の手法等の検討

[Step 2] ガイドライン等の検討、導入・普及活動の実施

[Step 3] 品目拡大に向けた課題の整理、検討、導入・普及活動の実施 (継続)



より精度の高いトレーサビリティの普及・導入に向けたロードマップ

解決すべき主な課題